

中部支部だより

第25号

平成24年9月1日
滋賀県レイカディア大学
同窓会中部支部（日野分會）
発行責任者 堀江勇夫
編集者 堀江勇夫

中部支部長

就任に際して

滋賀県レイカディア大学
同窓会中部支部（日野分會）
支部長 堀江 勇夫



会員のみなさま方には、いよいよお健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。

日頃は、レイカディア大学同窓会中部支部の運営とお住まいの地域の繁栄のために、ご活躍を頂いておりますことに、心から敬意を払い感謝を申し上げます。

さて、私去る四月十八日の同窓会中部支部総会におきまして、支部長に就任させていただきましたことになりました。多士済済の諸先輩が綺羅星のごとくいる中では、もとより力不足ではございますが、精一杯務めさせていただきますので、よろしくお引き回し下さいますようお願い致します。

まず。

ご承知のとおり、レイカディア大学を取り巻く運営環境には、大変厳しいものがありますが、中部支部のそれらもまた同様のものがあります。現状をしっかりと踏まえつつ抱えている課題の解決に向けて、いささかなりとも皆様のご期待に沿えるよう、頑張つて参りたいと思っておりますので、これから二年間にわたりまして、皆様の暖かいご指導とご協力を、切にお願い申し上げます。

中部支部としての今年度の重点事業の推進と本部同窓会との連携強化は、以下の項目の実践で応えていきたいと思っております。

① 中部支部（当番支部）として、本部主催グラウンドゴルフ大会の成功を期すること。

② 中部支部「日帰り旅行」の盛況を目指すこと。

③ 中部支部活動と、それぞれの分会活動の違いを見出し生かすこと。

④ 中部支部広報「中部支部だより」を、年二回（第二十五号・第二十六号）発行すること。

⑤ 四支部交流GG大会の成功を期すること。

⑥ 中部支部GG大会を有意義に開催すること。

⑦ 本部総務部長の職責の善きを期すること。

⑧ 中部支部HPを開設し、内容の充実に努めること。

⑨ 魅力ある同窓会活動とは：を、いつも念頭に置きながら衆知を形にすること。

このことを通して、それぞれの分会の規模と意識のバラツキを乗り越えて、中部支部活動の活性化を図れるように、役員の親睦を図りつつ一致協力して、新たな同窓会支部の在り方を探っていきたく考えています。

終わりになりましたが、会員皆様のますますのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。就任のご挨拶といたします。

難聴と健康寿命

前支部長（能登川分會）
青木 忠雄

同窓会関連の引き継ぎも済み、一息ついた七月三日、目覚まし代わりの朝ドラの無声に気づいて家内に問うと、いつものとおりとの事で、一晩で聴力が異常と気付いた。町の耳鼻科医に駆け込むと、「突発性難聴」に付き入院治療を開始すれば相当の治療効果が望めるとのことので、入院手続きをお願いする。

近江八幡総合医療センターへの湖周道路は折悪しく豪雨が集中、ワイパー越しに突然現れる対向車に恐怖感を覚えながら無事病院に到着し、ステロイド系の点滴が開始された。

九日間で50%程度の回復が見込まれ、退院。現在はビタミンB12剤の服薬と通院中である。

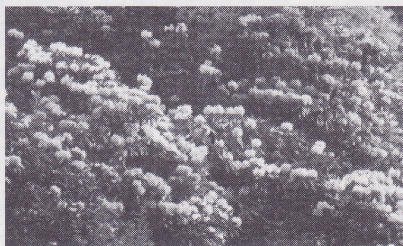
八十一歳を超えた現在、厭なことは聞こえず楽しいことは聞こえる事とすれば100%の回復にプラスする健康寿命が、どれほど伸びるかを楽しみにしている。

最後に、在任中のご支援ご協力有り難うございました。厚く厚く御礼申し上げます。

日野町 花の名所



さつき寺 雲迎寺



天然記念物「ほんしゃくなげ群落」



藤の寺 正法寺

平成24年度・25年度 中部支部役員一覧表

役職名	氏 名	所 属	卒 期	学 科
支 部 長	堀 江 勇 夫	日 野	30	地域文化
副支部長	松 川 宇一郎	永 源 寺	26	園 芸
副支部長	畑 中 芳 枝	竜 王	30	スポレク
庶務会計	松 居 信 勝	五 個 荘	30	陶 芸
理 事	鵜 川 紘 行	竜 王	24	園 芸
理 事	安 井 武 市	八 日 市	29	園 芸
理 事	山 本 耕 三	安 土	26	園 芸
理 事	澤 吉 見	能 登 川	28	生 活
監 事	青 木 忠 雄	能 登 川	26	文 芸
監 事	西 村 輝 彦	能 登 川	28	文 芸

分会別の会員数(今年度増減変更有) 平成24年 7 月現在

八日市	安 土	能登川	五個荘	永源寺	日 野	竜 王	合計
21	20	67	7	4	14	12	145

平成24年度～25年度 本部役員一覧表

役職名	氏 名	区 分	卒期・学科	所属支部
会 長	戸之洞 貞夫	留 任 (現会長)	第20期 生活学科	湖北支部 顧問
副会長	岡 田 定 一	留 任 (現副会長)	第26期 文芸	近江八幡 支部
副会長	小 林 仁 司	留 任 (現副会長)	第23期 文芸	守山野洲 支部長
事務局長	増 田 泰 男	新任	第23期 園芸	大津 支部長
会 計	国 松 功	新任	第25期 園芸	草津栗東 支部長
監 事	青 木 忠 雄	新任	第26期 文芸	中部支部 前会計
監 事	西 村 輝 彦	新任	第28期 文芸	中部 支部

平成24年度～25年度 本部部会 構成

	総務部	研修部	広報部	HP部
担当主幹	戸之洞貞夫	岡田定一	小林仁司	田中 孟
部 長	堀江勇夫	小林龍朔	富田 豊	
副部長	国松 功	増田泰男	圓城 忠	調整会議
担当理事	並木吉三郎	小泉一夫	佐瀬章男	(草津校)
担当理事	村中治之	松川宇一郎	西村満子	小林仁司
担当理事	倉田紘一郎	松本寿一	加藤英昭	増田泰男
担当理事	高橋一男	中橋絹子	木村榮個	(米原校)
担当理事	平木善成		赤尾美智子	岡田定一
担当理事	山岡義彦		畑中芳枝	田中 孟
担当理事			山口忠義	

輝く 支部会員の日々!!

地域での一齣

二十九期生園芸学科(韋津校)

安井 武市

社会福祉協力委員をお引き受けて二年目になります。「家庭での閉じこもりをなくし話仲間を沢山つくりたい」を目的に毎月一回ふれあいサロンを開催しています。

講師には、市の出前講座や社協の出前講座の中から健康講座、地域の歴史講座や、昔懐かしい童謡・歌謡曲を聴いたり歌ったり、時には近くの公園でニュースポーツを楽しんだりしています。

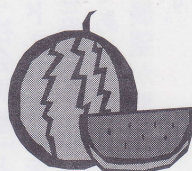
年齢層は六十五歳位から九十歳位と幅広く参加者は女性が多く男性の参加が少ないのが気になります。開場一時間前には集まってこられ、お喋りの輪が出来ています。

昼食後はお話時間とし、皆さんそれぞれに足の痛い事や腰の痛い事、きのうはこんなことがあったとか話の種は尽きません。

やはり話題の多いのは畑仕事の事で、カラスにスイカをやられたとかマクワの木が枯れたとか話が

弾んでいます。話しておられる時には眼は輝き体が活き活きしています。

これがふれあいサロンやなあーと思い、これから話の輪が出来るとサロンの心掛けて行きたいと念じています。



祝傘寿

今を大切に生きたい

二十期生スポレク科(米原校)

奥居 喜久子

私は、今年の誕生日に満八十歳になる。

昨年十月東近江市社会福祉大会で創設された「きらめき大賞」を受賞した。永年の障がい者サークルや高齢者サロン等福祉活動に貢献したとして。

そして、今年四月十八日には浄土宗知恩院の高齢者(八十歳)祝賀会に招待され、八十八世願上人の色紙を頂く。また、同月二十四日には滋賀県健康推

進員連絡協議会の定期総会にて八十歳以上会長感謝章を受賞した。

人生八十年?の節目に、各方面から祝福され、ここから何かが始まりそうだとワクワクしている。

しかし、気持ちは若くても体がついていきかねるのが現実。想定外の事故が多い現代、つつがなく普通の毎日を過ごせることに感謝しながら、今を大切に一步一步自分の歩幅で歩んで、生きたいと念じている。



総本山 知恩院

地域のボランティア活動に参加して

中部支部 三十二期 園芸学科

中島 忠司

昨年の九月にレイカディア大学園芸学科を卒業してこれからの様にしたいところと、悩んでいたところ竜王支部の役員の方より同窓会のグランド

ゴルフ大会へのお誘いを受け参加させてもらいました。その結果初めてホールインワンをしました。これがやみ付きとなり日夜頑張つて練習をしています。先日、竜王町の同級生より学童支援のボランティアの依頼を受け参加しました。内容は、小学生の磁石の製作とモーターの製作を児童の補助指導者としてクラス別に参加し児童全員のモーターが回ったときは、全員喜びました。その他の学童支援ボランティアは、ミシン作業、お花畑製作及びスキー教室支援などがあり今後も参加したいと思っています。小さな分会ですが精一杯頑張つて活動しますのでご支援宜しくお願いします。



達者で長生き

米原校 二十八期 文芸部

西村 輝彦

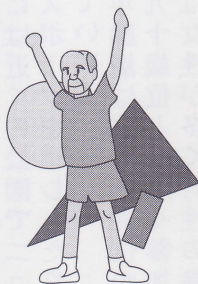
誰もが願う唯一の思い。そして生ある以上一生を悔いなき人生にしたい。でも願ひとは裏腹に加齢とともにそこかしこに異常な症状が出てきます。高齢社会の現象としては、椅子を好まれる人が多くなつてまいりました。

お寺参りにも殆どが椅子対応になつてきており、椅子の無いイベントへの参加は極めて減少しております。私の連中にも最近、王座・あぐらの姿勢が出来なくなつて来ている人が多くなつてまいりました。概して腰痛・膝関節の痛みが多いように聞きます。年寄りには洋風住まいが適しているのでしょうか。

良く考えてみれば、七十年近く使ってきた体、都度の健康診断はあったにせよ車のように車検で部品交換もオイル交換も差すこともなく今日まで持ちこたえていることが不思議に感じます。なだめなだめ、偶にはちよつと贅沢な食事で誤魔化しながら自

分で自分を褒め自画自賛して橋渡ししているのが現状です。これからも元気がなにより、過保護でもよい労りながらマイペースを堅持しつつ微力でも地域の担ぎ手で頑張りたいと思つております。

“ウォーキング ラジオ体操 日課なり 今日元気 診断しつつ”



テレビを視て

安土分会

二十三期 園芸学科

矢野 高安

老夫婦二人で、夕方までかかってやっと一日の課業を終える生活ですが、特段の病いの心配がないのが、何より有難いと思つています。

しかし齢は取りたくないものです。二年程前から腰に変調を覚えるように

なり、体力に以前のような自信がなくなりました。そして、友人や身内の訃報に接したときの寂しさ辛さは一人で、老いを痛切に感じます。

今年昔流の傘寿を迎えましたので、自分の今迄の生き方を反省して、人に迷惑をかけないで自分なりに仕事の達成感が得られるよう心懸けて、一日一日を楽しもうと決めました

ところで先晩、NHKのEテレ高令者の健康番組で、「運動」「栄養」「社会参加」が重要で、健康な九十才を目指してほしいと話されていたのは三番目の「社会参加」です。「社会貢献」となるとハードルの高さを意識せざるを得ませんが、「社会参加」であれば私たち老夫婦にも展望が期待できるからです。



本校について思う

園芸 二十六期

松川 宇一郎

本校も早や三十五年を過ぎ評判も良く入学希望者も順調に経過してきた。

しかし数年前に県の財政悪化に伴い募集が中断されたのを機に入学希望者が激減し、特に米原校は希望者無しの学科が出た。関係者は講義内容を時代のニーズに合わせたり、広報活動にOB会も参加し、努力はしていると思うがその成果は上がらない状



況である。その原因は色々考えられるが、経済情勢が悪くなり、年々年金も減額され六〇歳を過ぎても働く人が多くなっている。

また色々と期待して入学し、卒業したが社会貢献をする機会を自分自身で見つける事は、そう簡単にはいかない。誰かのサポートが必要であると考え。誰がどの様にサポートするかが問題である。その上で社会に本校の必要性を認識してもらう事が肝心だと考えている。

皆様のお知恵を拝借し本校の発展を望んでいます。

同窓会に参加して

陶芸学科三十期生

松居 信勝

先日、中学校の同窓会に参加してきました。久しぶりの旧友との再会に期待して行きましたが、前回と同じような顔ぶれであり、参加者が減っている様で、心持残念に思いました。

開会が宣言され、まず、校歌を合唱し、会食に移り、昔の話に花が咲いていくのであります。この間、クラスごとの記念写真やスナップ写真を撮る人が多く、ざわついていました。同窓会運営の一つの流れになっている様です。

同窓会は終わりましたが、何かしっくりしません。もう少し楽しい事があってもよいのではないかと仲間と話していましたところ、“今回の同窓会の幹事を発表します”とのアナウンスがあり、私の名前が呼ばれているではないか。これは困ったことになったと思いつつも、気が早い、次回はあれ、これをしたかどうか。と旧友と策を捻りながら帰途に就いた次第です。

宝塔会の仲間仲間に入れてもらって

二十七年生園芸(米原校)

池戸 利夫

私は、今年数え年七十歳になりました。待ちかねたように、宝塔会(石塔町は、老人会を「宝塔会」といいます)の役員様から、宝塔会に入会するようにお誘いを受けました。宝塔会の活動にどれだけの奉仕ができるかわかりませんが、入会させて頂きました。

日ごろは、いくつかのボランティア活動や自分の楽しみ等に関わりを持っています。それぞれについて、何一つ充分なことは出来ていませんが、又一つ関わりが増えたと思います。私は、これといった特技もなく不器用者です。自分のできることを出来るところで活動することで、少しでも宝塔会のお役に立つことが出来、私も楽しませていただければ大変嬉しいことです。

次に、お酒大好きの私です。ので、食事会などで別の顔を表し、大失敗をしないか心配です。また、関わる事ができる幸せに慣れて、つい愚痴などを言ってしまう

まわらないかも知気をつけなければなりません。「お陰様の感謝の気持ち」と、「挨拶は、心を込めて自分から」を意識して実践することで、仲間入りさせていたきたいことを大切にしていきたいと思っています。



世界遺産めぐり

三十一期園芸(米原校) 辻 泰一

退職後世界遺産に興味を持ち、家内とツアーで海外旅行を楽しんでおります。

最初は平成十九年古代遺跡のエジプト八日間、平成二十年に古代遺跡と自然遺産のトルコ十日間、平成二十一年オーストラリア六日間、平成二十二年北京四日間、桂林五日間、上海四日間、平成二十三年九月スイス四大名峰ハイキング十日間、平成二十四年四月カナダのナイアガラ、カナディアンロッキーズ八

日間と一年一々二カ国目標に、古代建造物の世界遺産、大自然の素晴らしい景観に取り付かれて各国を訪問しています。

二人とも今のところ健康に恵まれ、食べ物の好き嫌いもなく、閑空から添乗員付きのツアーで安心して旅立っております。

今後も健康な内に出来るだけ多くの国々に行けることを願っております。



「雑詠」

二十六期 文芸 澤 亨

きらなる湖

今年四月の日曜日、レイカディア同窓の友等と楽しんだ琵琶湖クルーズ。

今日晴れてきらら煌めく琵琶の湖長浜港に乘船を待つ

滑るがに湖面を進む船に見ゆ伊吹の峰の冠雪光る



竹生島

物忘れ又も気になるこの夕べ忘るべきこと忘れ得ずして (近詠)

ふた年の季早きとも長きとも思ひて辿る友の顔々 (卒業前)

光芒は湖面を二分に昇りつつ今朝は黄砂ににぶく輝く (湖西にて)

傾きしままに青める老い松の連波光る湖面背に立つ (在学中)

竹生島の百六十五段石段をわが登り得るか登ってみよう、登ることが出来ました。友と合い、歌に携っていると在学中の種々が沸々と甦って来る。湖岸の景なども。

思い出と出会い

竜王分会 二十八期

辻 充 子

文芸部に席を置き、書道と短歌を御指導頂き、素敵な同じ時を過ごした仲間達との二年間、あの二年間は、私にとって非常に楽しく、意義ある時であり、今に続いている。

今に続いているのは、私だけではないと考える。

レイ大を卒業された先輩諸氏、後輩の皆様方、日常の生活の中で今を謳歌され、地域に根ざした御活躍をされておいでの事と、拝察する次第である。

高令社会の中で、今日を、明日を、未来に向っていかに生きるかを問われる今日、一人で過ごせる時を持つ事と合わせて、仲間と同じ空間を過ごす事の意味を、大切さを思わざる得ない今、元気に澀刺とされている皆様方卒業生のお姿を見かけ、声を掛けて頂く事に、喜びを感じ、嬉しく思っている私。



生きがい

文芸学科 二十二期生

寄 本 美代子

平成十年に手作り紙芝居を習いましてからボランティアとして老人施設幼稚園学校等へ手作り紙芝居を持参しグループでの活動が続いております。

保育園や幼稚園のお子達のキラキラとした眼に出会うと後期高齢者の私は元気づけられる様でうれしくなります。画面に注目し一生懸命見て下さったお子達に「有り難うございました。又来ますのでよろしくね」と退場しながら次の作品を考える私がいまます。こうして十年余り畑や家事の合間を見ての作品づくりには生きがいを感じます。年齢を重ね無理は禁物ですから一日一日大切に暮らしています。先日テレビ出演の長寿者さんさんの娘さん四人の言葉にも最後にぎんさんは生きるの字を書かれたそうです。生きがいとしてこれからは紙芝居作品を考えながら自分自身の生きることを続けたいと思います。手作り紙芝居を教えて

妻の入院

永源寺 文藝第十期

松 吉 良 清

頂いた先生方有り難うございました。

思わぬことから妻が大腿骨折という大怪我で四月末から入院している。

老人二人の生活でお互いに、もたれ合い、助け合いながらの生活と思っていたが、いざ一人になってみると助け合いでなく、もたれっぱなしだったんだと言うことが良く判った。

入院が丁度四月末で季節の移り変りで衣服類から下着まで夏物に取り替える必要からパンツはどこ、Tシャツはあそこズボン、靴下はと一から十まで妻の指示がなければ用が足せない、そればかりか三食の用意から洗濯お風呂など数えればキリがない。

妻の家事労働に対する賃金がいかに程かが宣伝された時期もあったが値段をつけるが高額になることが判った。今更高給取りだと認めても入院中では致し方がない。

一日も早くリハビリを

終へ愚痴りながらも家事労働の日が早く来ることを願っている。

六月と花

三十一期 スボレク学科

福 山 ヤエ子

六月は、山にも野にもいろいろな花の咲く楽しい季節です、また雨に濡れて木々の新緑が生き生きと輝きます

大池寺や雲迎寺のさつきが咲き終わり、あじさいの花が公園や川岸道端庭先とあちこちに咲き誇っています、あじさいは車中からもよく目につきあたりの景色を楽しませてくれます。

あじさいとは対照的に小さな花ムシャリンドウの鉢植えを先日レイカディア大の友達からいただいた、寒い北海道に少し自生している花だそうでおこしで大切に育てておられます、紫や白の可憐な花です、私も大切に育てて来年も楽しみたいと思っています。

先日県外にある罪を犯した人たちの施設を訪問

編集後記

漸く涼風が立ち過ぎやすい季節の到来が近づいていることを感じるころとなりました。

「中部支部だより・第二十五号」の発行にかかる原稿をお寄せいただいた会員の皆様に心より感謝申し上げます。

今回は特にテーマを設けず、よもやま話を集めた形とさせて頂きました。気楽な気分でお読みいただければ幸いです。

さて、本年度は「第十四回同窓会親善グランドゴルフ大会」開催の当番支部に当りますことから、選手・役員ともども大変なご協力をいただくこととなりますが、よろしくお願いいたします。

次号(第二十六号)には、本年度の事業計画の進捗により、多くの楽しい記事を掲載できるものと思っておりますのでご期待ください。

— 発行責任者 —